

◎注意事項をよくお読み下さい



リソナ 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2019/7/26

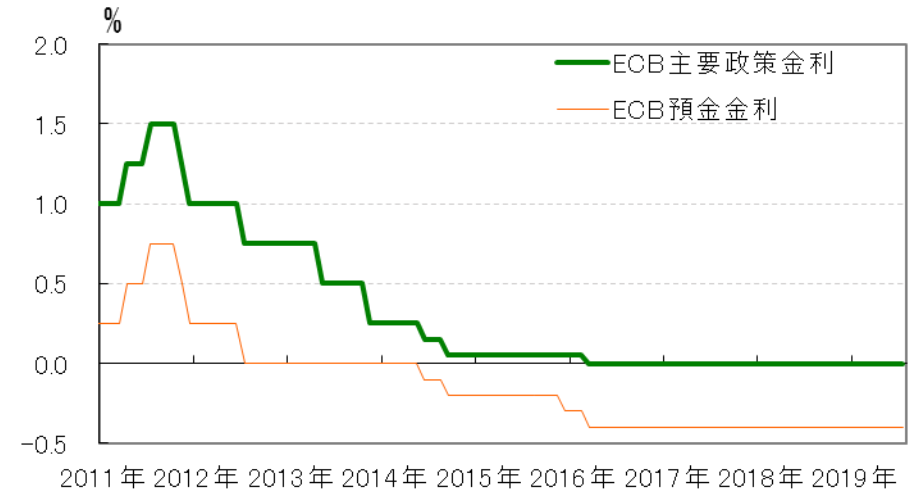
リソナホールディングス 市場企画部

〇概況

- ◆ 政策金利のフォワードガイダンスを強化し、今後の利下げを示唆
- ◆ インフレ目標について前年比+2%をある程度上回ることを容認
- ◆ 一方で緩和策への具体的な言及はなく、市場の反応はやや失望的となった

- ✓ 7月25日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**政策金利を据え置き**、主要リファイナンス金利を0.00%、中銀預金金利は▲0.40%、中銀貸出金利は0.25%とした。
- ✓ フォワードガイダンス（将来の金融政策方針）について、政策金利を「**現状ないしは現状を下回るレベル**」を少なくとも2020年前半まで維持する」（従来は「現状レベル」）とし、**今後の利下げを示唆した**。また満期を迎えた債券の償還金に関して、長期間にわたり再投資を続けることを確認した。
- ✓ 従来インフレ目標を「前年比+2%をやや下回る」レベルとしていたものを削除し、「**インフレ目標の“対称性”にコミットする**」との文言に変更。インフレ率がある程度の期間2%を上回ることを容認する形となった。また金融機関のマイナス金利への副作用を軽減する**中銀預金金利の階層化や、資産購入再開の検討**を指示したとした。
- ✓ ドラギ総裁は記者会見にて、**貿易問題や地政学リスクの高まりから製造業を中心に状況は悪化する一方であり、BREXITや中国経済の減速も先行きの見通しを弱める**とした。一方で景気後退リスクは低いとし、**追加緩和策の具体的な中身への質問については、「今会合では議論していない」と述べるに留まった**。
- ✓ 欧州金利、ユーロともに一旦は下落したものの、ドラギ総裁のコメントは市場が予想していたほどハト派的ではないとの見方からその後上昇。市場では9月の会合での追加緩和を見込んでいる。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（6月時点）】

	2019年	2020年	2021年
実質GDP成長率	+1.2	+1.4	+1.4
3月時点の見通し	+1.1	+1.6	+1.5
HICP(消費者物価)	+1.3	+1.4	+1.6
3月時点の見通し	+1.2	+1.5	+1.6

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。